



ジへつながらアクセス道路の改良工事などが行われているほか、(仮称)岩国トンネルの工事についても着手されました。今年度も引き続きアクセス道路の改良工事などが行われるとともに、国土交通省の第三者機関であるトンネル技術検討委員会で、これまで実施した地質調査結果をもとに(仮称)山手トンネルに関連する事項が審議される予定です。

「藤生長野バイパス」 (岩国南バイパスの南伸)

藤生長野バイパスは、岩国南バイパスの終点となる藤生町から長野までの区間で事業着手された国道188号のバイパスです。本バイパス整備区間と並行する国道188号では、通勤時間帯の渋滞発生に加え、異常気象発生時の波浪による路面の冠水や交通事故発生時に代替路線がないなどの大きな課題があります。

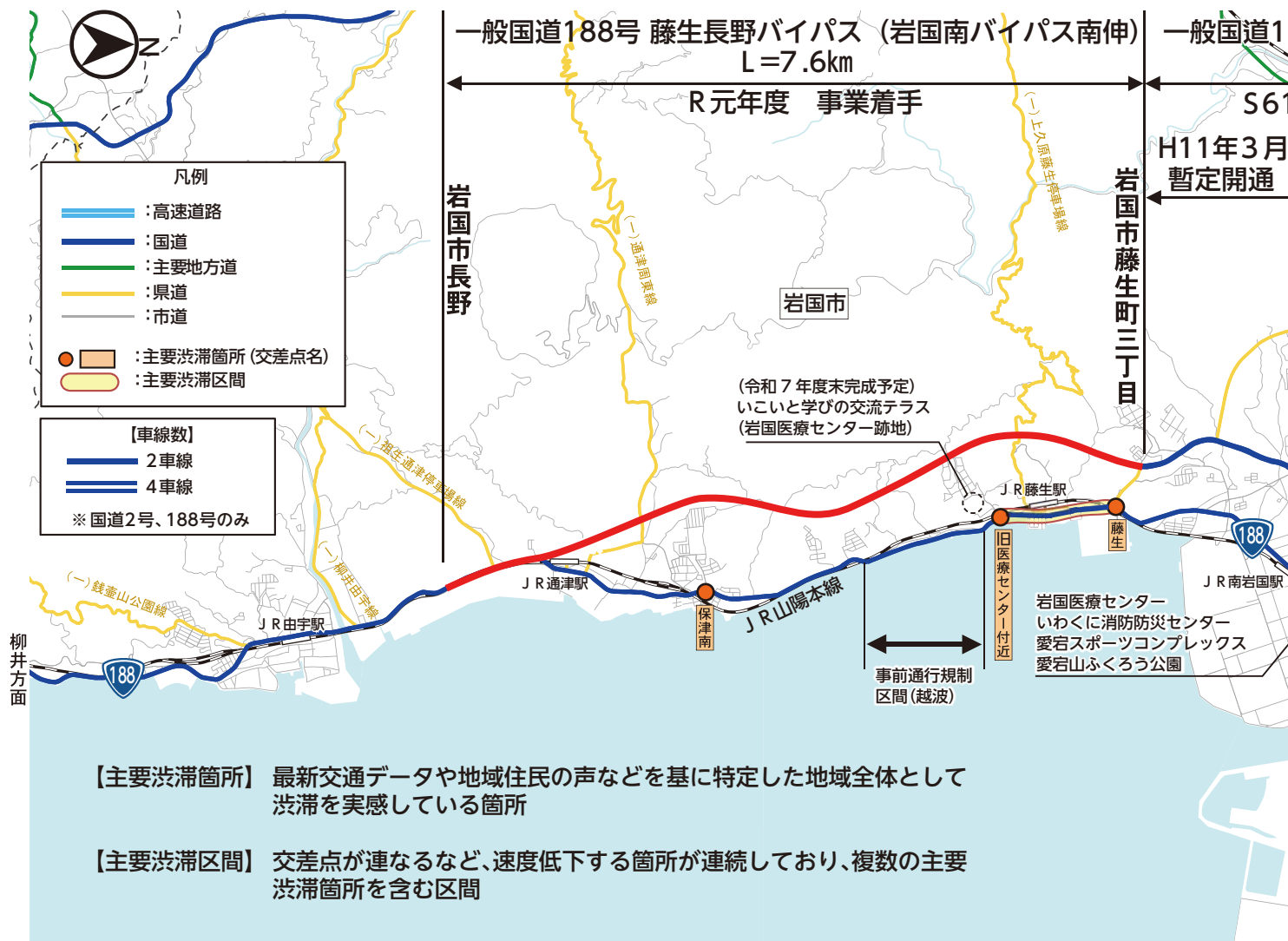
このようなことから令和元年度に国土交通省において新規事業化され、昨年度はこれまで実施した地形測量や地質調査、道路予備設計をもとに、地権者や沿線住民を対象とした設計説明会が開催されました。今後は、事業に必要な土地の測量や建物調査などが行われます。

岩国市の幹線道路のこれから

広島広域都市圏の西の要衝である岩国市にとって、幹線道路は周辺市町と共存共栄していくための重要な都市基盤施設であり、スピード感を持って整備を進めていくことが大切です。

市では今後も、周辺の自治体や関係機関としっかり連携しながら、多くの人々の期待を力に「岩国・大竹道路」および「藤生長野バイパス」(岩国南バイパスの南伸)の早期完成に向け、官民一体となって、幹線道路の整備に取り組んでいきます。

国道2号と国道188号のバイパス整備について



岩国市のバイパス整備について

幹線道路の整備は、交通混雑の緩和や交通安全の確保はもちろんのこと、都市間ネットワークの構築による広島広域都市圏内の連携・交流の促進や、ダブルネットワークの確保による災害に強い道づくりとして大変重要です。

この他にも、岩国錦帯橋空港や岩国港などの輸送施設への移動時間短縮による観光・ビジネス面での潜在的な地域力の底上げ、岩国医療センターやいわくに消防防災センター、愛宕スポーツコンプレックスなどが集積する愛宕地区、市が福祉・交流拠点のまちづくりを目指し整備を進める黒磯地区(いこいと学びの交流テラス)へのアクセス向上など、さまざまな効果が期待されており、本市における地方創生や国土強^{きょうじんか}化に欠くことができないものです。

しかし、主要な幹線道路である国道2号と国道188号には、広島県大竹市小方から本市長野までの

区間に「主要渋滞箇所」が15カ所あり、渋滞の緩和が大きな課題となっています。

こうしたことから国土交通省では、大竹市小方から山手町までの区間において、国道2号のバイパス「岩国・大竹道路」(延長9.8km)を整備しています。

また国道188号のバイパスである「岩国南バイパス」(延長4.9km)は、山手町から藤生町までの全区間が暫定2車線で開通しており、さらに藤生町から長野までを区間とする「藤生長野バイパス」(延長7.6km)が事業着手されています。

「岩国・大竹道路」

岩国・大竹道路は、区間のほとんどがトンネルと橋で構成され、大竹市御園地区で山陽自動車道に接続し、山手町で岩国南バイパスに接続する計画となっています。

現在、山口県側では(仮称)室の木インターチェン